

## 第 1 学 年 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・できる限り前時の復習や、日常生活に関する話題から授業に入る。
- ・音読、暗唱等に繰り返し取り組む。
- ・語彙を増やす。(平仮名・片仮名指導を活用)
- ・学習用語に対する習熟を意図的・継続的に行う。
- ・ぐんぐんタイムの活用による、基礎基本の習熟を行う。
- ・数量を数えることや数の構成を繰り返し習熟させる。
- ・具体物の操作→半具体物の操作という過程を重視する。(算数)

### 2 その他の取り組み

- ・「発言ルール」「座り方」「鉛筆の持ち方」など、学習に向かう姿勢を徹底して指導する。
- ・読み聞かせによる読書活動の推進。

## 第 2 学 年 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・語彙を増やす。
- ・自力解決の時間を十分に確保する。
- ・算数科では既習事項を掲示し、授業において活用する。
- ・ぐんぐんタイムを実施し、基礎基本の定着を図る。
- ・話し合い活動の充実を図る。

### 2 その他の取り組み

- ・基礎基本の定着ため、漢字・音読の課題を出し、全員の取り組みを見届ける。
- ・読書や読み聞かせによる読書活動の推進。
- ・自分の考えや思いを「書くこと」で表現できるようにする。

## 第 3 学 年 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・自力解決の時間を確保する。
- ・練り上げから出てきたキーワードを使って、まとめる。
- ・指示語が何を指しているのかを確認し、内容を丁寧に把握させる。
- ・既習事項を振り返りながら定着を図る。既習事項を授業で活用できるようにする。

### 2 その他の取り組み

- ・家庭学習(漢字・算数・音読)の継続的な取組と見届け。
- ・集中できる環境を作る。(授業規律、教室掲示、整理整頓、忘れ物なし)
- ・既習事項の掲示。

## 第 4 学 年 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・授業の頭に、数分でできる文法問題を毎時間取り組む。
- ・漢字学習に繰り返し取り組む。
- ・ぐんぐんタイムに取り組む、漢字、計算の力をつける。
- ・説明的文章では、特に主語・述語・指示語に注意する。
- ・児童が図や言葉で表せるよう、手立てを積み重ねることで身に付けていける授業づくりを行う。
- ・課題提示の工夫と机間巡視により、手がつかない児童がいないようにする。

### 2 その他の取り組み

- ・家庭学習で音読、漢字、計算、じんやっ子ノートに継続的に取り組む。

## 第 5 学 年 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・既習事項の確認を意図的に取り入れる。
- ・友達と交流して、見方を広げる授業の工夫。
- ・答えを問うだけでなく、理由や解決の過程を問う場面を意図的に取り入れる。
- ・どの教科でも、キーワードを使って自分の言葉でまとめさせる。
- ・知的な関心・意欲を喚起させる導入になるように工夫する。
- ・振り返りの時間の確保と、振り返りを共有させる。

### 2 その他の取り組み

- ・ぐんぐんタイムを活用する（漢字の読み書き、計算の定着）
- ・家庭学習で、音読・漢字・計算を継続的に取り組む。
- ・Qubena を積極的に活用し、既習事項の定着を図る。

## 第 6 学 年 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・自信を持って発表できる工夫（ペア→グループ→全体）
- ・既習事項を振り返りながら定着を図る。
- ・答えを問うだけでなく、理由や考え、解決の過程を問う。
- ・身近な生活の場面とつなげたり具体的な例を取り上げたりする。
- ・授業の終末に視点を与えて、学びを振り返る時間を設定する。

### 2 その他の取り組み

- ・家庭学習（漢字・算数・音読）の継続的な取組と見届け。
- ・Qubena の活用と児童の取り組み状況を把握する。

## 理 科 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・「事象→課題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察」の学習過程を繰り返し、思考力を向上させる。
- ・単元や本時の課題を明確に示す。振り返りでは、その時間にわかったことを明確にする。
- ・観察、実験の過程や結果、考察等を文章や図でまとめさせる。
- ・実感を伴った活動を増やす。(体験させる、生活と結びつける)
- ・少人数による工夫した話し合いの場を持つ。(予想、観察や実験方法の検討、考察など)

### 2 その他の取り組み

- ・実験器具や薬品の管理、安全で利用しやすいように理科室を整備する。
- ・学習のための資料や学習の様子がわかるように掲示物を充実させる。

## 音 楽 科 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・音楽記号など学習をくり返し行い、楽譜を見る習慣をつける。
- ・音符を読み、書く活動を取り入れ、基礎的な知識を定着させる。
- ・階名唱で旋律の動きを確認し、フレーズや曲の山を感じ取らせる。
- ・工夫したグループ学習を取り入れ、表現の工夫を話し合う時間を設ける。
- ・友達の演奏を聴き、お互いを認め合うことで、自信をもって音楽活動に取り組めるようにする。
- ・「音楽づくり」にてChromebookを活用し、既習事項を生かしながら児童が自分の思いを表現しやすくする。

### 2 その他の取り組み

- ・音楽記号のテストなどを作成し、実施する。
- ・個に応じて休み時間などに練習できる場を設ける。
- ・譜面台や椅子の位置など、活動しやすい環境をつくる。

## 図 画 工 作 科 学 力 向 上 プ ラ ン

### 1 授業を通した取り組み

- ・〔共通事項〕(形、色、イメージ)を視点に、発想したり制作したり、鑑賞したりする。
- ・自分の思いを大切に表現する。(発想の手立て)
- ・手や体全体を使って、楽しく活動できるように準備する。  
(十分な活動場所と時間、多様な材料)
- ・鑑賞会等、互いの作品や活動のよさを認め合う場を設定する。
- ・様々な用具の安全な使い方を確認し、作品づくりに生かす視点を提案する。
- ・ICTを活用することで、作品を様々な見方が出来ることを児童に共有させる。

### 2 その他の取り組み

- ・校内に作品を展示する。